

私たちは見ている

国会内外「反対」の声渦巻く

「わたしたちの思い、今こそ受け止めて」。連懲性が問われ続けた安全保障関連法案の審議が大詰めを迎えた16日、切なる願いが各地に広がった。参院で怒号が飛び交う中、雨に見舞われた国会前では「廃案」を求める声が続いた。議論は尽きたのか――。

ウオッチ 安保国会

16日夜、参院は怒号が飛び交った。参院特別委の開

催予定の午後6時になって、委員会に先立つ理事会が開かれた。「廃案だ！」と野党議員が訴えれば、「実力行使、恥ずかしいのか」と与党議員。理事室内前の赤じゅうたんはすしじま状態になり、騒然となった。参議院別館ロビーでは、傍聴人たちが集まり、ロビーに置かれたテレビは、委員会室の映像を映し出していた。

都内の大学生、田中美知生さん(23)は「自分たちの時代に起きていることを聞

近で見て肌で知りたいと思ってきた。キャンセル待ちの傍聴券を握りしめ、「議論がかみ合わないまま採決するのはまずい」。田中さんと一緒にいた友人の大学生、菅谷仁志

さん(22)は、傍聴券を手に入れられなかった。大学で政治や政策について学んでいる。「自分と反対の意見や、少数者の意見を取り入れるのが民主主義の要諦。反対の声を押しきって

法案を通そうとする政府のやり方は問題だ」と話しだ。高慢で傲慢な態度だ」と憤った。「ホルムズ海峡に対する説明もいっただり来たり。政権そのものも法案自体も欺瞞に満ちている」と話していた。

したことを「学問を馬鹿にした、高慢で傲慢な態度だ」と憤った。「ホルムズ海峡に対する説明もいっただり来たり。政権そのものも法案自体も欺瞞に満ちている」と話していた。

雨の中「廃案」求めコール

「野党のみさんは国会の中で戦っている。私たちもがんばりましょう」。午後6時半、抗議活動を主催する市民団体の男性が国会前で声を上げると、「強行採決絶対やめろ」のコールが始まった。雨脚が強くなる中、ずぶぬれになって叫び続ける参加者もいた。

佐藤さんは親に置き手紙を残してやって来た。2年後に選挙権を持つ。「法案が成立すれば時の政府の解釈で武力が使われるようになる。政府を監視し続ける」と話した。

人(同)が集まり、会社員の女性(61)は「70年前と違い、今は声を上げられる時代。命を大切にしないやり方は許せない」。京都市役所前では京都大学大学院文学研究科教授の小山哲さん(64)が「戦であふれる歴史の中、憲法9条は奇跡のよる存在」と訴えた。

「市民を守れ」「危ない」怒号、鳴り響く警察車両のサイレン。警官ともみ合ふ参加者も。太鼓の音やシユプレヒコールが大きくなる中、高校1年生の佐藤晴佳さん(16)は千葉県習志野市で抗議活動の様子を携帯電話で撮影していた。

富山県高岡市のJR高岡駅前では約400人(主催者発表)が抗議行動。主婦(66)は「国民無視の法案は廃案に」と求めた。奈良市の近鉄奈良駅前には300

大阪・キタの家電量販店前。抗議集会の近くでスマートフォンを触っていたモデルの川本裕之さん(27)は神戸市で「聞かされてるけど頭には入ってこない」と言い、「戦争しない世界が一番いいけど、何が正しい形なのか、よくわからない」とぼつりと語った。



採決強行に反対し、抗議の声を上げる人々。16日午後6時34分、国会前、岡田航撮影



左から、菅谷仁志さん、田中美知生さん、菅谷仁志さん

9/17
朝日